

かたりべ 22

豊島区立郷土資料館だより



旧山本医院

郷土資料館では、八月から特別展「子どもの再発見―豊島の児童文化運動と新学校―」を開催いたします。ここでは四月に行なった長野県の調査報告をかねて、大正期の児童文化運動に大きな貢献をした画家、山本鼎（一八八二―一九四六）について述べてみたいと思います。

山本は、一九一六（大正五）年仏国留学の帰りに立寄ったモスクワの美術教育に感銘を受け、一八年、長野県上田市において児童自由画運動を始めました。上の写真は、その拠点となった山本の父が開業していた旧医院です。児童自由画運動は、子どもが直接見て、感じたことをありのままに自由に描くことを主張した運動で、当時臨画（りんが）（手本を模写する）が中心だった美術教育界に新風をまきおこしました。

山本は、全国各地の小学校で自由画展覧会を開催する傍ら、鈴木三重吉主宰の『赤い鳥』や婦人の友社の『子供之友』等に児童自由画を公募、自ら選評を書き、また羽仁もと子の自由学園で美術科主任を務めるなど、豊島区の児童文化運動と密接な関わりをもっていたといえます。今回の展示では、大正期の子どものための文化運動と新学校をとりあげますが、山本鼎の果たした役割についても一部紹介するつもりです。

一九九一年度

豊島区立郷土資料館事業予定

郷土資料館では、今年度次のような事業を計画しています。どうぞご期待ください。

* * *

特別展

一、八月一日から九月二十九日まで

「子どもの再発見」

・特別展記念シンポジウム 九月八日

「豊島の児童文化を語る」

・親子絵画教室

八月二五日

二、一月下旬から三月下旬まで

「失われた水辺(仮題)」

・特別展記念シンポジウム「水辺」

* * *

地域史講座

「太平記の時代」七月六日から八月四日

(詳細は四頁を御覧ください)

「戦争の傷跡を歩く(仮題)」八月上旬から

歴史講座

「第二回 古文書の心を読む」九月下旬から

「豊島・失われた水辺を調べる」一月上旬

* * *

刊行物

調査報告書第七集『中世豊島氏関係資料集(2)』

調査報告書第八集『豊島区学童疎開関係資料集』

地図集第五集『近世II(村絵図)』

郷土資料館目録第五集『収蔵資料目録』

郷土資料館紀要・年報『生活と文化 第六号』

(一九九二年一月から三月頃刊行予定)

郷土資料館日より『かたりべ』年四回発行

* * *

保存・整理

館蔵資料の燻蒸・整理も例年通り行う予定です。

おります。

・資料館収蔵庫の燻蒸 六月下旬

・旧宣教師館収蔵庫の燻蒸 九月下旬

* * *

本年度も、豊島区立郷土資料館を、なにとぞ

宜しくお願ひします。

へ来館者の声

☆昨年三月に開催した企画展「池袋の生活資料展」で、次のような貴重な御意見・御感想をいただきました。

ここに、そのごく一部を紹介し、今後の資料館活動の参考にさせていただきますと思います。

* * *

私の子供の頃(戦時中)の話の肉付が、その当時のもので、話の内容が分ったと思います。又その話を、子供へ又子供へと伝えられると思います。

(練馬区 五十九歳 男性)

* * *

ちよつと昔が遠い遠い昔になってしまったことを実感しました。ずい分たくさんのものを捨ててきてしまった。バチがあたりそう。

(豊島区 五十七歳 男性)

* * *

室内が狭い。展示物が少ない。

(相模原市 四十七歳 男性)

* * *

近過去の展示には大変興味を覚える。江

『失われた水辺』を調べてみませんか

郷土資料館では、今年夏季から秋季にかけて区内を主な対象とした『失われた水辺』調査を行います。以前、当館で行った特別展『失われた耕地』展でのアンケート調査で、展示に足をお運び下さった区民の方の声に答えるため今回の調査を企画しました。

豊島区内には、現在、新宿区との区境を流れる神田川以外に自然の流れはありません。かつて区内を流れていた谷端川や弦巻川・千川上水は、現在その姿を地下に潜らせてしまい、暗きよとなっております。

この『失われた水辺』調査は、区内にかつて流れていた河川の流路や、流域の人々の暮らしなどについて調べるものです。

もちろん対象は川だけではありません。武蔵野台地の東端に位置する豊島区域には、数多くの井戸や名水とうたわれた湧き水がありました。が、今回の調査では、未だ歴史的な調査のなされていかないこれらの井戸や湧き水についても調べていきたいと思います。

「水辺」と銘打っているのは、ただ川の流れや井戸などの位置だけを迫るのではなく、人々の暮らしと川との関わりについても、いろいろ

とお聞きして、その様子をできるだけ明らかにしたいと考えているからです。

例えば、長崎地区に数多くあったといわれている「大根洗い場」。かつて豊島区が大根の一大生産地であったことを知る人は、余りいません。地元で大根を作っていたある人は「収穫の時期になると、谷端川に設けられていた大根洗い場のまわりや川の土手は、一面大根で埋まり真っ白になった」と昔を振り返られています。

また、現在では谷端川の消滅とともに完全にその姿を消してしまっている「流れ灌頂」という風習もありました。「流れ灌頂」とは、産後の経過が悪く、不幸にも命を落としてしまった産婦の霊を慰めるため、両岸に竿を立てて、経文を書いた白い布を川面に渡す風習ですが、この風習が谷端川に残っていたことを知る人は現在ほとんどいません。それが、一体谷端川のどの流域で行われていたのか、そんなことを調べるのも今回の調査の目的の一つなのです。

そして、現在、注目を浴びている水辺環境の問題も見落とすことはできません。蛍がたくさんいたという谷端川や弦巻川。これら「山の手ウォーターフロント」についても、区民の皆さんや、興味・関心のある方がたの参加・協力をえて、調査を進めていきたいと考えています。

(連絡は、担当・君塚まで)

戸明治より戦中戦後昭和三十年前後の展示は重要だと思ふ。今回の企画は大変よい。

ただ、時代をもっとしぼってもよかったのではないか。戦前―三十年代というのは長すぎる。二間の部屋はよくわからない。

とはいえ、近過去の展示はほとんどんやってもらいたい。特に三十年代を。

* * *

(浦和市 四十歳 男性)

東京の都市形成史を知る上で貴重な資料が多く感心した。今からは考えられないほどのほとした日用品が多く心が和みます。

ただ、若干系統だてた展示の方が分りやすいように思う。

* * *

(品川区 二十一歳 男性)

私達にもちよつとなつかしい物。でも子供は案外知らないものもあり、いっしょに見に来てよかったです。

* * *

(豊島区 四十一歳 女性)

その他、取札が木でできている百人一首について、北海道では珍らしくなく、現在でも使用されているという御指摘をいただきました。どうもありがとうございました。

《郷土資料館歴史講座》

太平記の時代

今回はNHK大河ドラマ「太平記」でブームとなっている南北朝時代を取り上げてみました。なかなか進まない大河ドラマもやっと鎌倉幕府の滅亡にこぎつけた。片岡鶴太郎の演じる太守北条高時の人気によってシナリオがのびた？のだというが、果たして面白いドラマと言えるのかは疑わしい。原作の吉川英治「私本太平記」が足利尊氏を主人公に描いているのに対して、太平記に登場する尊氏以外の新田義貞・楠木正成・佐々木道誉・後醍醐天皇など数多くの有名な人物にも、それぞれ名のある俳優が配されて、ドラマの筋がどこにあるのかよくわからないのが理由ではないか（個人的な感想）。しかし、このような状況が、ドラマではあまり描かれない民衆も含めて誰が主人公であるかわからない、誰もが主人公になりえた時代であったことを表現しているとも言えようか。

さて、公家・武士が南北朝に分かれて抗争が行われた14世紀の60年間におよぶ戦乱は、南北朝の内乱と呼ばれる。これが「太平記」の描く時代である。しかし、この戦乱は公家・武士のみならず広範に民衆を巻き込んで全国にわたり、列島社会全体を揺るがすものであった。バラ（波婆羅）と呼ばれる既成の概念にとらわ

れない自由な風潮は、この時代の特徴を表している。村での結集を基盤とした農民たちの一揆や悪党・国人などの動向は、前代の社会的基盤であった荘園制を崩壊に導き、また貨幣流通の進展とともに商工業者の活躍も顕著になる。さらに連歌・田楽・立花といった民衆文化が形成されるにいたる。このような「太平記」の時代像を足利尊氏・新田義貞などの武士たちだけでなく、名もない農民たちの動向を含めて学んでいただければ幸いである。

◇日程・内容：左表の通り◇時：午後2時～4時◇会場：勤労福祉会館6階第6会議室◇費用：無料◇定員50名（先着順、連続講座のため全日程参加可能の方が優先）◇申込み・詳細：6月15日から電話で当館☎3980-2351

日時	テーマ	講師
7月6日(土)	「太平記」と南北朝内乱	佐藤和彦氏 (東京学芸大学教授)
7月14日(日)	名和長年と建武新政	桜井 彦氏 (宮内庁書陵部)
7月20日(土)	「太平記」と悪党	渡辺浩史氏 (日本大学助手)
7月28日(日)	村の動乱	黒田弘子氏 (中央大学講師)
8月4日(日)	南朝忠臣論 ―新田・北畠・懐良―	海津一朗氏 (東京都立大学講師)

編集後記

一カ月遅れになってしまいました。『かたりべ』二二号をお送り致します。なお、次号からの発行は、八月(二三号)、十一月(二四号)、一九九二年二月(二五号)の予定です。

今年の夏の児童文化に関する特別展は、親子そろって、一緒に見て、考えられるようにと企画しました。どうぞ、楽しみにしてください。次の第二三号は、その特別展の特集号になるかと思えます。

次の期間、展示室を閉鎖いたします。
 ・六月二六日から三〇日まで
 ・七月二五日から三一日まで
 本館収蔵庫燻蒸のため
 夏期特別展準備のため
 よろしくお願ひします。

かたりべ
 No.22
 1991年6月25日発行
 豊島区立郷土資料館
 豊島区西池袋2-37-4
 電話03-3980-2351